



最新シリーズがこのF10 COMPLETE EVO 10.1。エアロデザインはEVO92.1、93.1のラインと新型ディライトをベースにしつつも新たにフロント、リアバンパーともにEVOシリーズの新アイテムである「カーボン・バー」を採用。5シリーズのエlegantなシルエットに、スポーティな弾猛さとラグジュアリー性がインストールされている。



「どこかの国の諺に『素敵な靴は、素敵な場所へ連れて行く』というのがあるんですが、ボクとしては『素敵な時計は、素敵な時を刻む』という風に考えたいです」。そう語る青木さんは3年前に貯金を崩してエクスペローラーII (G番)を購入。王道ブランドでもありオールマイティに使えるこのモデルは、毎日していてもまったく飽きることがないとか。

俺=ロレックス+BMW ENERGY COMPLETE EVO 10.1

[BMW528i]

above ROLEX EXPLORER II

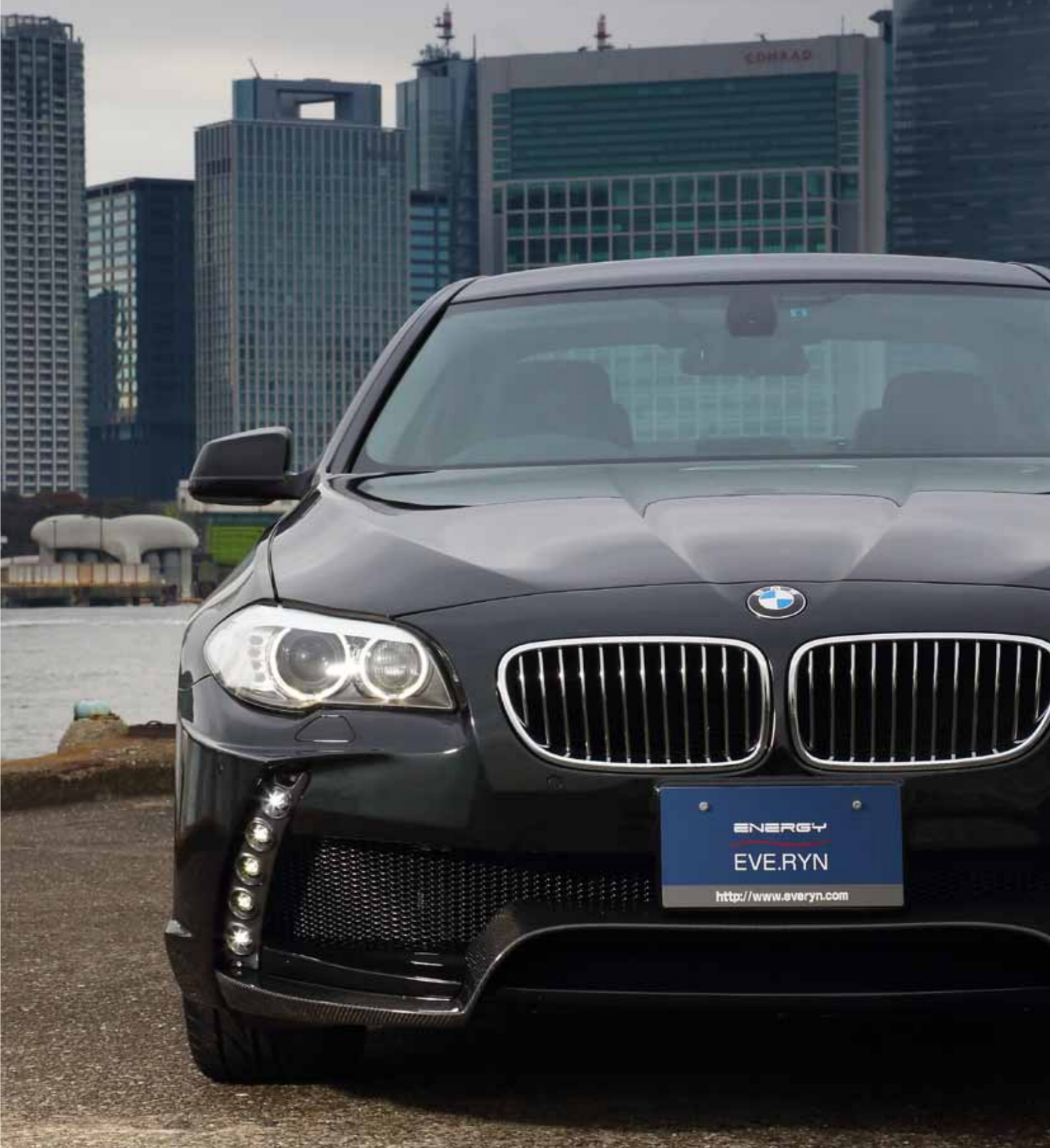
ライフスタイルの基本は スポーツマインドと冒険心

子供の頃からBMWとロレックスは
身近にある存在でした……

世界的にも知られた話ではあるが、日本には世界で注目されているホイールやエアロパーツのメーカーが数多く存在している。スキルの高い品質・質感に対するこだわりやデザインの優れた感性などが、世界

中のクルマ好きセレブリティたちから支持されているというわけである。

ここで紹介する個人的なBMW5シリーズをプロデュースするのは、大阪に本拠地をおきながら東京にも進出を果たした「ガレージエフリン」というBMW専門店。ノーマル車の販売なども手がけるが、特筆すべきは「エナジーモータースポーツ」とい



うブランドだ。これまでも様々なスタイルのコンプリートカーをリリースしてきたが、そのどれもが個性的でスポーティ。BMWのもつスポーティさとエレガントさを十分に理解したうえで、強インパクトを放つ開口をリリースしている。より多くのユーザーを意識したエアロというのは時におとなしいデザインで没個性のになりがちだが、エナジーモータースポーツはしっかりと個性をアピールしながら、より多くの人の心を捉えることに成功したブランドでもある。東京にシヨールムを構えるようになったのも、どうやらその必然性からの上である。

「モノ心ついた時から、BMWとロレックスは常に身近な存在でした」
そう語るのはガレージエフリンでアシスタントデザイナーを務めている青木淳さん23歳。

「BMWのエアロを担当しているのですが、アシスタントデザイナーというのは、新しい提案をすることでその雛形とも言えるべき仮デザインを作製するんです」

いくつかのバターンを用意し、デザイナーに「アピルする……、そのデザイナーが青木さんの父親というわけだ。」

「BMWとロレックスは大好きですね。BMWはマルセデスと違って、所有欲を満たすというよりは、実際に走らせて楽しむクルマ。また、3年前に買ったこのロレックスはエクスペローラーII (G)。冒険者という意味じゃないですか。BMWのスポーツマインドとロレックスの冒険心。このふたつは、ボクの永遠のテーマにしようかなって思っています」

次に狙うのは、ティトナ。青木さんが小さい頃からティトナをつけていた父親に、少しも近づけたら……。